



2025年3月期(1Q) 決算説明資料

データセクション株式会社

2024年8月20日

証券コード: 3905



1. 2025年3月期(1Q) 実績

2. 2025年3月期 計画

3. Appendix

4. 参考資料(会社概要)

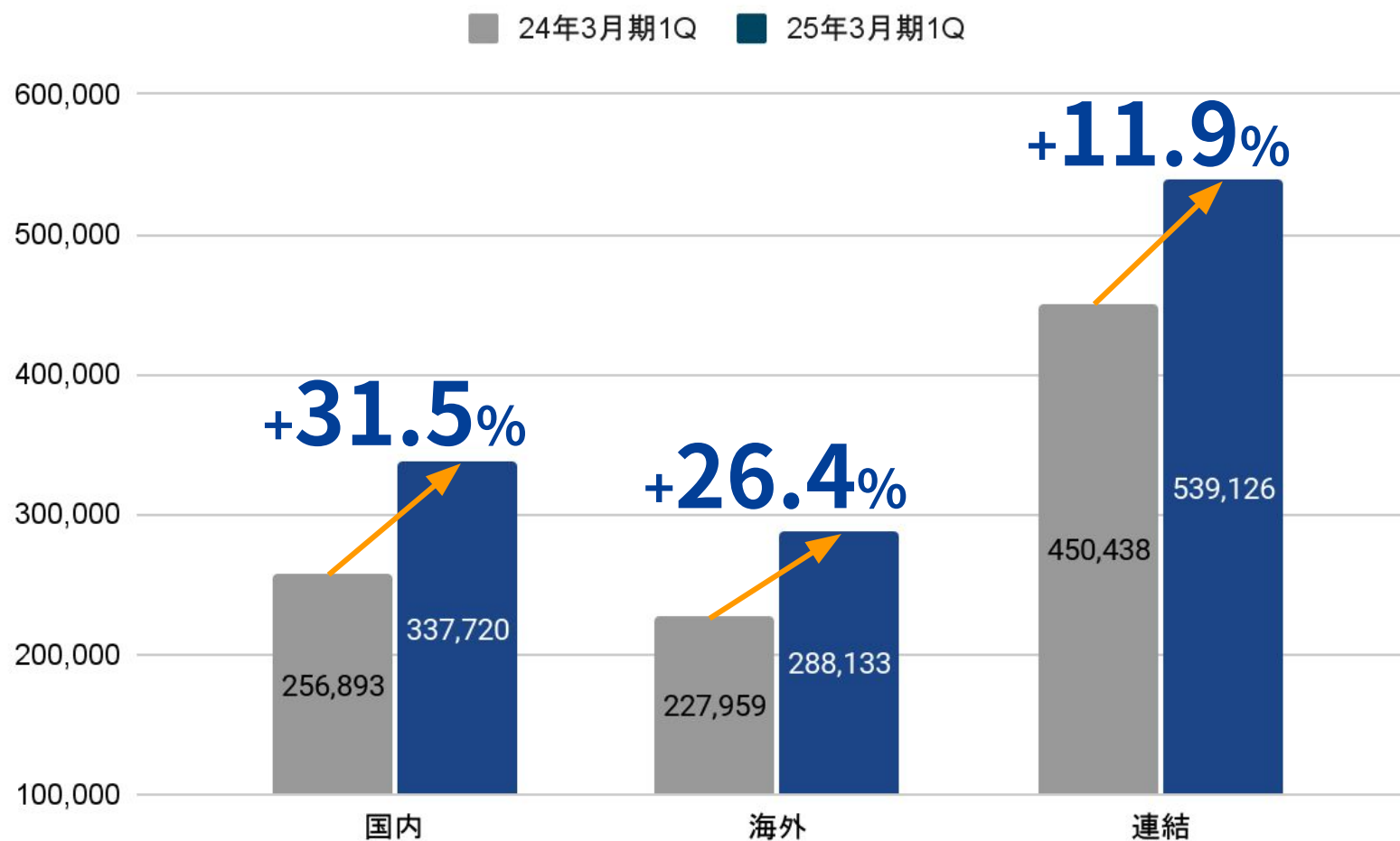
1. 2025年3月期(1Q) 実績

- 当社におけるデータサイエンス事業の貢献に加え、
 主要な海外子会社において受注が堅調に推移し、増収(前年同四半期対比+19.7%)

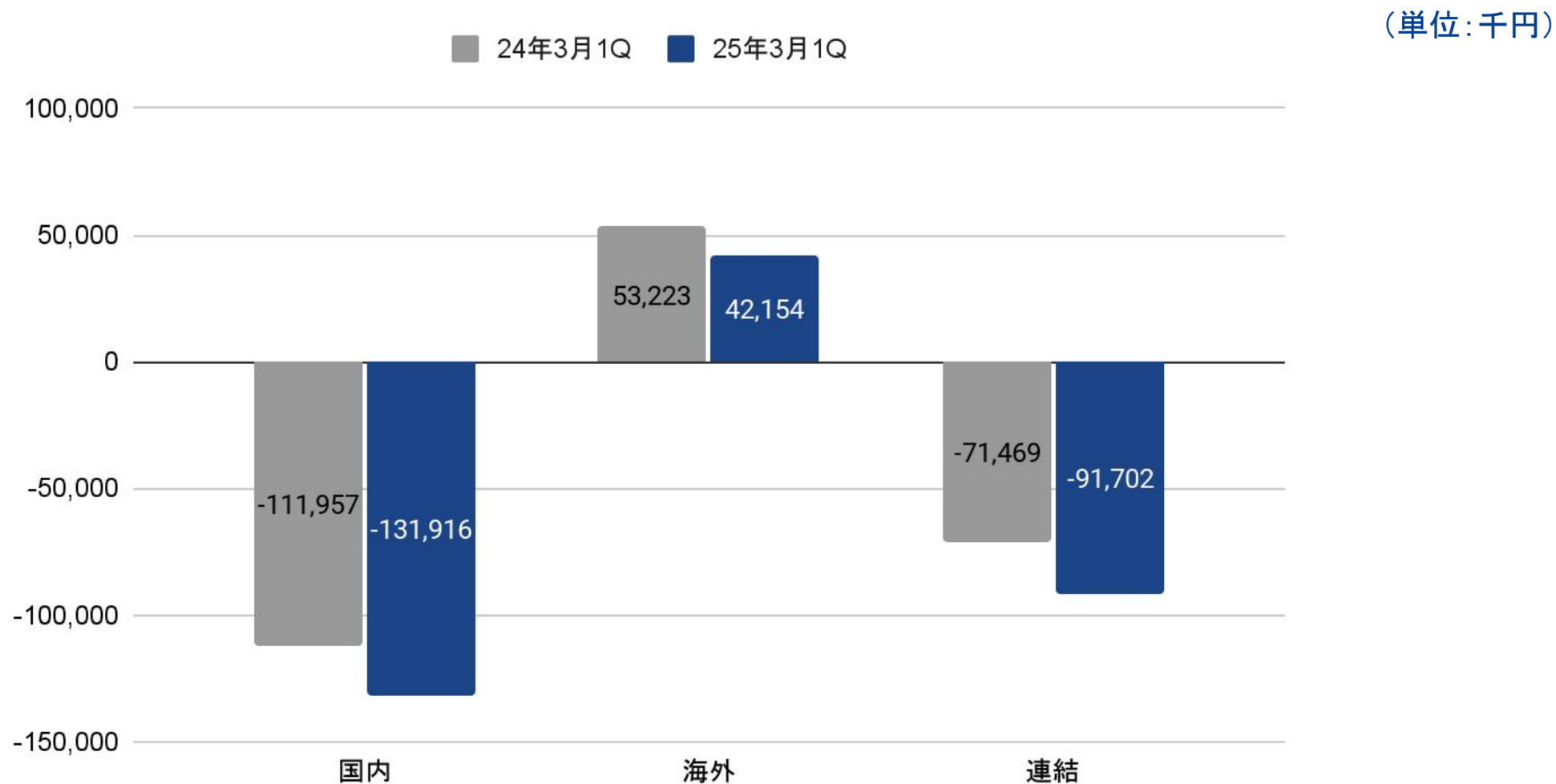
項目	25年3月期(1Q) 実績値	前年対比	
		実績	差分
売上高	539	450	+89
営業利益	▲91	▲71	▲20
調整後 EBITDA	▲22	▲13	▲9
経常利益	▲84	▲64	▲20
親会社 純利益	▲93	▲81	▲12

- ・国内・海外ともに成長を継続
- ・既存事業のポートフォリオ転換計画どおり、国内事業が成長を牽引

(単位:千円)



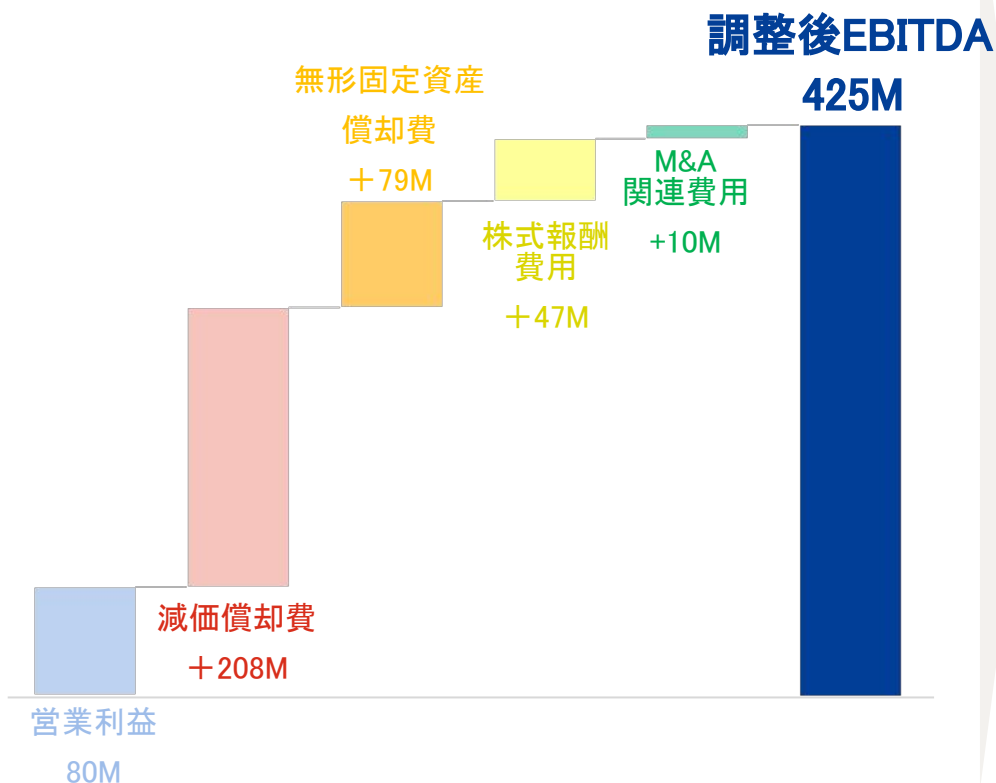
- ・単体における体制再構築費用が残存し営業損失を計上
- ・海外は、過年のソフトウェア開発の償却負担を要因に減益となるも、計画の範囲内



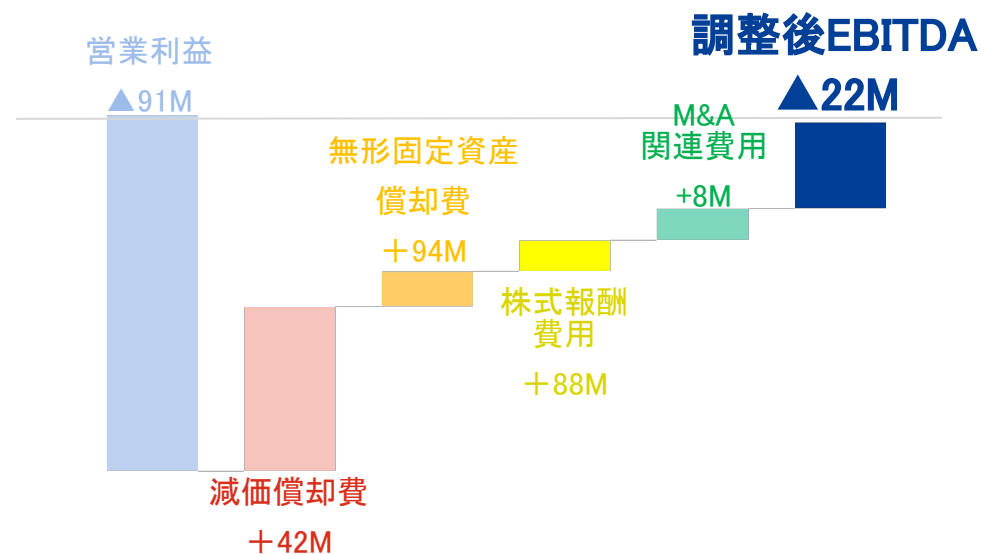
・ 実質的なCF創出力を示す調整後EBITDAは、年度ベースで黒字化を予定

※調整後EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 無形固定資産償却費 + 株式報酬費用 + M&A 関連費用

<25年3月期 当初計画>



<25年3月期 1Q 実績>

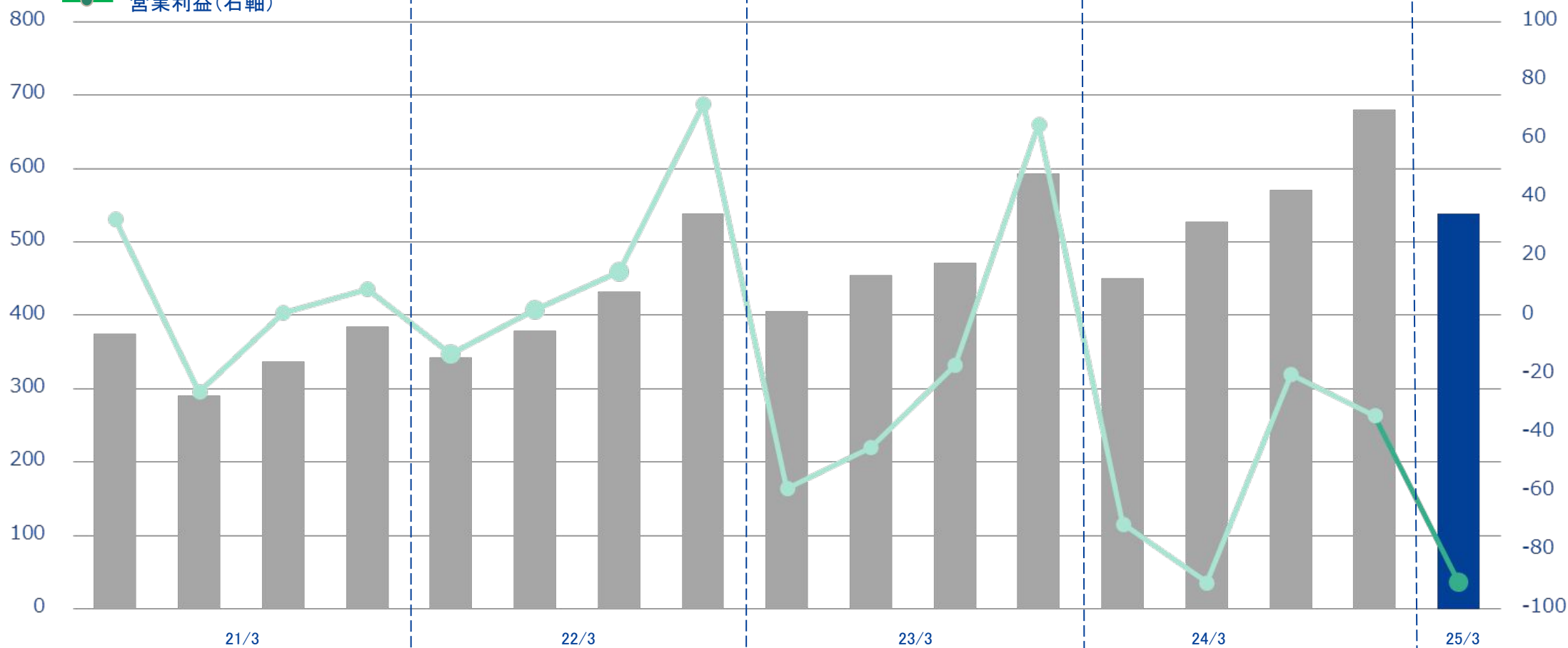


四半期毎売上高・営業利益推移(連結)

1. 2025年3月期(1Q) 実績

単位:百万円

■ 売上高(左軸)
● 営業利益(右軸)



決算期	21/3				22/3				23/3				24/3				25/3
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上高 (百万円)	375	290	337	385	342	379	432	538	405	454	472	593	450	528	571	680	539
営業利益 (百万円)	33	▲26	1	9	▲13	2	15	72	▲59	▲45	▲17	65	▲71	▲91	▲20	▲34	▲91

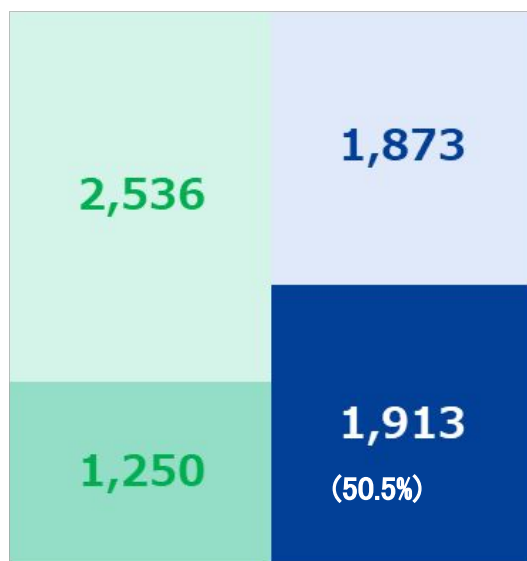
- ・7月1日付で買収したMSSののれんを計上(BS連結:1Q末、PL連結:2Q初)した関係で、総資産が大きく増加

(単位:百万円)

— 主要な増減要因 —

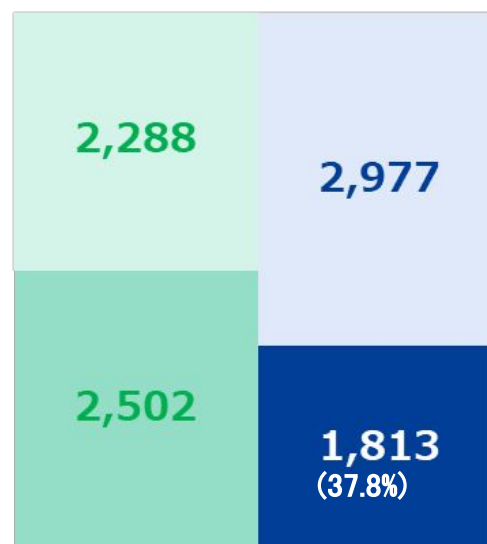
2024年3月期 期末
(2024年3月31日)

総資産 3,786



2025年3月期 1Q期末
(2024年6月30日)

総資産 4,790



○流動資産: ▲248

・現預金: ▲258

○固定資産: +1,252

・のれん: +1,242

○負債その他: +1,032

・未払金: +1,295

・短期借入金: ▲166

○自己資本: ▲100

・利益剰余金: ▲93

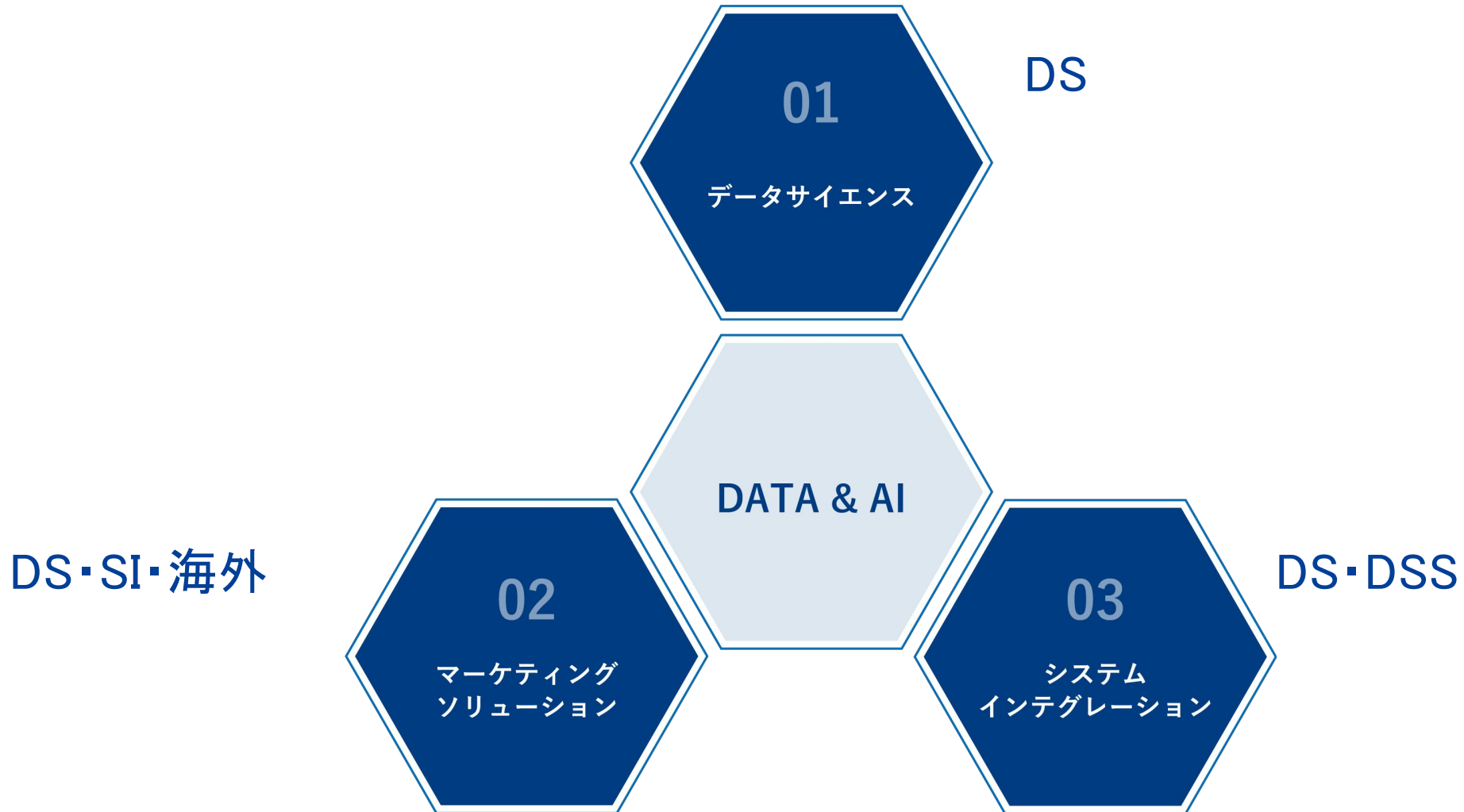
■ 流動資産

■ 固定資産

■ 自己資本

■ 負債その他

「データとAI」との強みに原点回帰し、3つの事業ドメインに再定義



※DS: データセクション株式会社、DSS: 株式会社ディーエスエス、SI: ソリッドインテリジェンス株式会社

売上高の先行指標は前年同期比で順調に増加

- 売上高の中期的なKPIとなる導入店舗数・カメラ設置台数は、特にチリでの大型ショッピングモールへの全店導入が寄与し、**オーガニックな成長を原動力に、前年対比約30%成長で推移**

— 導入店舗数(非連結子会社を合算) : 9,206店舗・カメラ設置台数(非連結子会社を合算) : 14,899台

※国内は2024年6月30日時点(海外は2024年3月31日時点)

< 導入店舗数とカメラ設置台数累計(連結ベース) >



当社の強みであるAIやデータ領域の一層の発展を目指し、4月9日付で先端AIデータイノベーション研究所(通称:AIDI)を設立。
LLMや生成AIをはじめとする先端技術の研究から、当社グループへのスピーディーな還元を目的とする

◆詳細については、以下の当社HPからご確認いただけます。

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/3905/tdnet/2419292/00.pdf>



<提携の理由>4月12日付

- ・この度、両社の技術、製品、リソース及びネットワークを活用し、今後も需要拡大が見込まれる AI サーバー分野における R&D、AI データセンターの運営などにおける協業を目的として、本業務提携を前提とした基本合意書を締結いたしました。

本提携の内容

本業務提携の開始に向け、AI サーバー分野における R&D、AI データセンターの運営などを中心に協議を進めており、本業務提携の具体的な方針及び内容等の詳細につきましては、今後の協議を踏まえ決定次第、適切に開示を行ってまいります。

今後の見通し

本件による、当社の2025年3月期連結業績への影響は軽微と考えておりますが、本業務提携の実現により、中長期的には当社の業績及び企業価値向上に資するものと考えております。今後、開示すべき事項が発生した場合は、速やかに開示いたします。

＜基本合意の骨子＞6月3日付

- ・本合意に基づき、当社、シャープ及び KDDI の 3 社は合弁会社を設立し、シャープの堺工場跡地にアジア最大規模の AI データセンターを構築、早期に稼働を開始することを目指してまいります。

本提携の内容











本 AI データセンターにおいては、当社の提携先である Supermicro から、NVIDIA の最先端の GPU(画像処理半導体)である GB200 NVL72 及びオペレーションコストを低減可能なリキッド・クーリング・ソリューションを含む AI サーバーを調達する計画です。大規模な電力の調達については、シャープの堺工場跡地に構築することで、十分な電力と場所を確保できる見込みであり、ネットワークの構築・運用面においては、KDDI からのサポートが得られます。

当社においては、本 AI データセンターの構築に参画するほか、AI クラウドサービスの運営を推進してまいります。

今後の見通し

本件による、当社の 2025 年3月期連結業績への影響は、当社の合弁会社への出資比率及び本 AI データセンター構築にかかる費用が未定であるため、現在精査中であり、詳細が分かり次第、速やかに開示いたします。本 AI データセンター構築の実現により、中長期的に当社の業績及び企業価値向上に資するものと考えております。

・国内事業及びCF強化の観点から、株式会社MSSを連結子会社化

	連結化年度	保有議決割合	主要な事業の内容
データセクション株式会社 	2000	—	データ分析の技術力で実社会の変革(企業の業務改善や消費者生活の向上)を推進
ソリッドインテリジェンス株式会社 	2013	86.9%	多言語ソーシャルメディア分析・コンサルティング事業
株式会社ディーエスエス 	2018	100.0%	金融系システム運用保守及びアプリケーション開発
Jach Technology SpA 	2019	100.0%	チリにおけるリテールマーケティング事業
Alianza FollowUP S.A.S. 	2019	100.0%	コロンビアにおけるリテールマーケティング事業
Inteligencia S.A. 	2021	100.0%	チリにおけるリテールマーケティング事業
Follow UP Peru S.A.C. 	2022	55.0%	ペルーにおけるリテールマーケティング事業
FollowUP Customer Experience S.I 	2023	95.0%	スペインにおけるリテールマーケティング事業
Alianza FollowUP Panamá S.A 	2023	100.0%	パナマにおけるリテールマーケティング事業
株式会社MSS 	2024 (予定)	100.0%	マーケティング・リサーチ事業 セールスプロモーション事業

2. 2025年3月期 計画

詳細については、「2025年3月期
通期連結業績予想数値の修正及び
新戦略に関する投資家説明会」(21ページ以降)に
て説明

・8月14日に開示のとおり、DS AI Infrastructure Global Investment Fund(仮称)の設立準備が進捗し、期中の事業開始・GP報酬の収受が見込まれること及び、株式会社MSSの連結子会社化による業績影響見直しにより、大幅な上方修正

項目	24年3月期 実績	25年3月期業績予想			
		当初	修正後	差分 (金額)	差分 (増減率)
売上高	2,229	2,650	3,312	+1,083	18.9%
営業利益	▲216	80	342	+558	—
調整後EBITDA	47	425	725	+678	797.0%
経常利益	▲235	55	317	+552	—
親会社純利益	▲1,261	17	217	+1,478	—

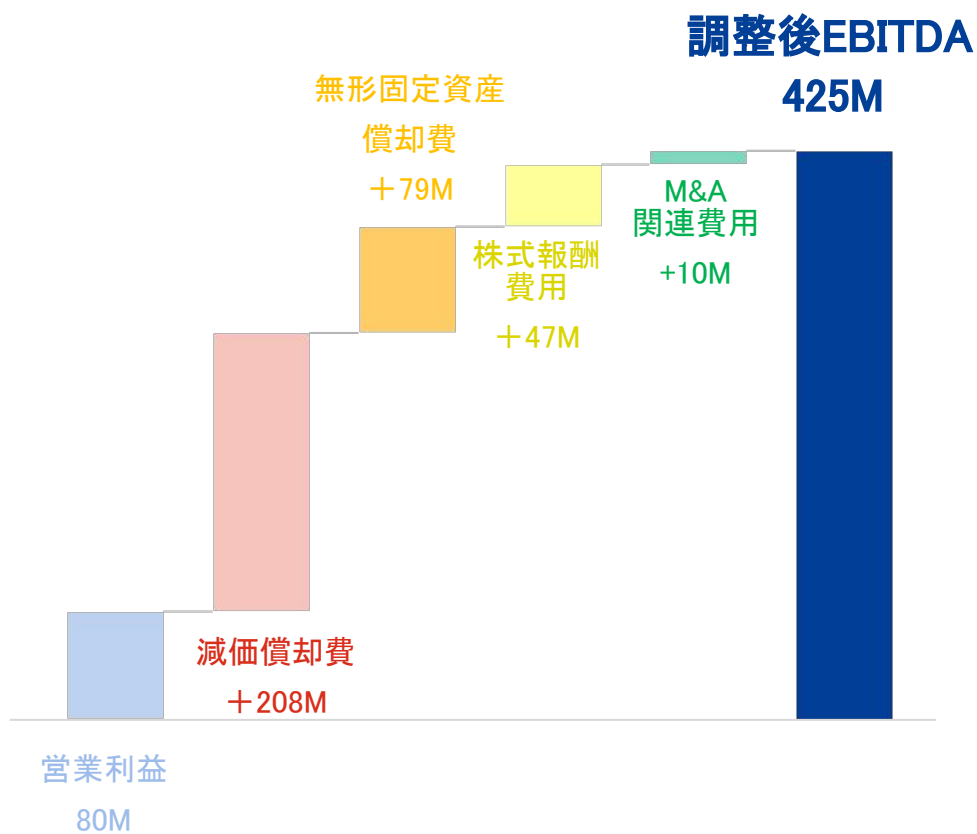
- 業績上方修正を踏まえ、年度では大幅な増収増益を計画



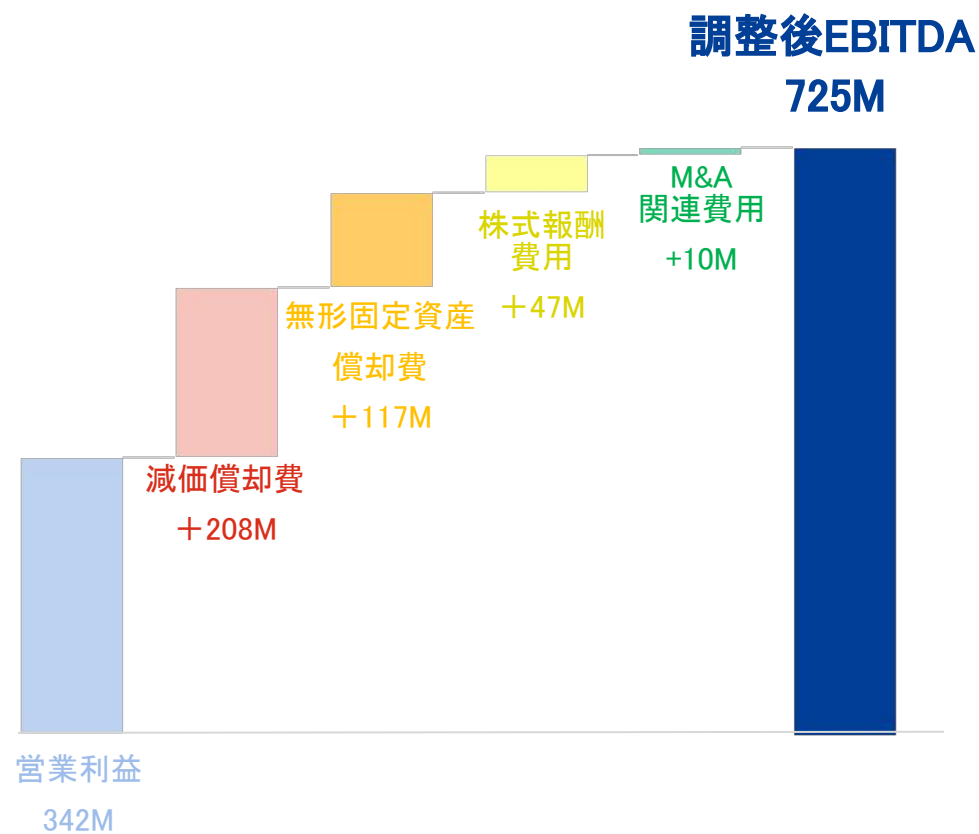
・ **調整後EBITDAについても業績予想修正による利益要因を主因に大幅に伸長予定**

※調整後EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 無形固定資産償却費 + 株式報酬費用 + M&A 関連費用

<25年3月期 当初計画>



<25年3月期 上方修正>



<事業戦略>

- ・既存事業はGood・Badを明確化し、オーガニックな利益成長とリストラクチャリングを併進し、黒字転換を図る
- ・新規事業についてはタイムリーな資源投下と事業化を展望

1. 事業ポートフォリオ

- ・事業ドメインの再定義による事業採算の管理強化
- ・PMIによるデータサイエンス領域伸長
- ・AIDI設立
- ・バルクHDとの提携具体化

2. Good・Bad

- ・国内(親会社)事業の黒字化とCF良化が最重要課題
- ・DSS・海外はオーガニックな利益成長
- ・国内の不採算事業はリストラクチャリングによる構造改革

3. 新規事業

- ・Supermicro社との業務提携(基本合意)
 - AI サーバー分野における R&D、AI データセンターの運営などを中心に協議継続中
- ・その他新規投資等

<全社戦略>

- ・連結の規模対比、相対的にグローバルベースで連結子会社が多いグループ特性を勘案、親会社の持株会社機能とガバナンスを強化

①HR機能強化

グローバルベースのリテンション強化、人事制度改定等の基盤増強

②コーポレート・ブランディング

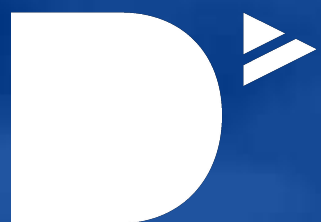
IR/PRの強化拡大による認知度向上継続
サステナビリティを始めとする非財務領域の充実による企業価値向上

③ガバナンス

グローバル上場企業としての強固なガバナンス向上、PMIの先鋭化

④オペレーショナル・エクセレンス

効率化・事業採算向上に繋がるオペレーショナル・エクセレンスの進展



DATA SECTION

**2025年3月期
通期連結業績予想数値の修正
及び
新戦略に関する投資家説明会**

2024年8月20日

2025年3月期通期連結業績予想数値の修正(2024年4月1日～2025年3月31日)

項目	当初計画	修正計画	増減	補足説明
売上高	2,650	3,312	+662	・GP報酬:4Qからアセットの50%の運用開始(@145円)。 GP報酬の50%を当社グループで收受と想定 売上高:USD2Bio×@145円×1/4Q×報酬水準2% ×当社グループ收受50%×アセット掛目50% =362.5M 営業利益:売上高に20%のコストがかかる想定 =362.5M×80%=2290M
営業利益	80	342	+262	
調整後 EBITDA	425	725	+300	・MSS寄与:見込増加分を反映 現状見込 売上高:750M(当初+300M) 営業利益:10M(当初+10M) のれん:12年償却とし算出(当初+38M)*負担増
経常利益	55	317	+262	・借入減少と為替変動減少(株主ローン相殺のため)により、営業外は変更せず
親会社 純利益	17	217	+200	・増益に合わせトータルで実効税率30%に調整

- DS AI Infrastructure Global Investment Fund(仮称)の設立準備の進捗により、売上高362百万円を今期に計上する見込み
- MSSの連結子会社化により、売上高が300百万円上回見込み
- 連結売上高は、前回発表予想を662百万円上回る3,312百万円となる見込み

既存事業は、オーガニックな利益成長と効率化

新規事業は、タイムリーな資源投下と事業化推進

1. 既存事業

- 事業採算の管理強化
- 構造改革によるCFの改善
- データサイエンス領域を成長
- パートナーシップ強化

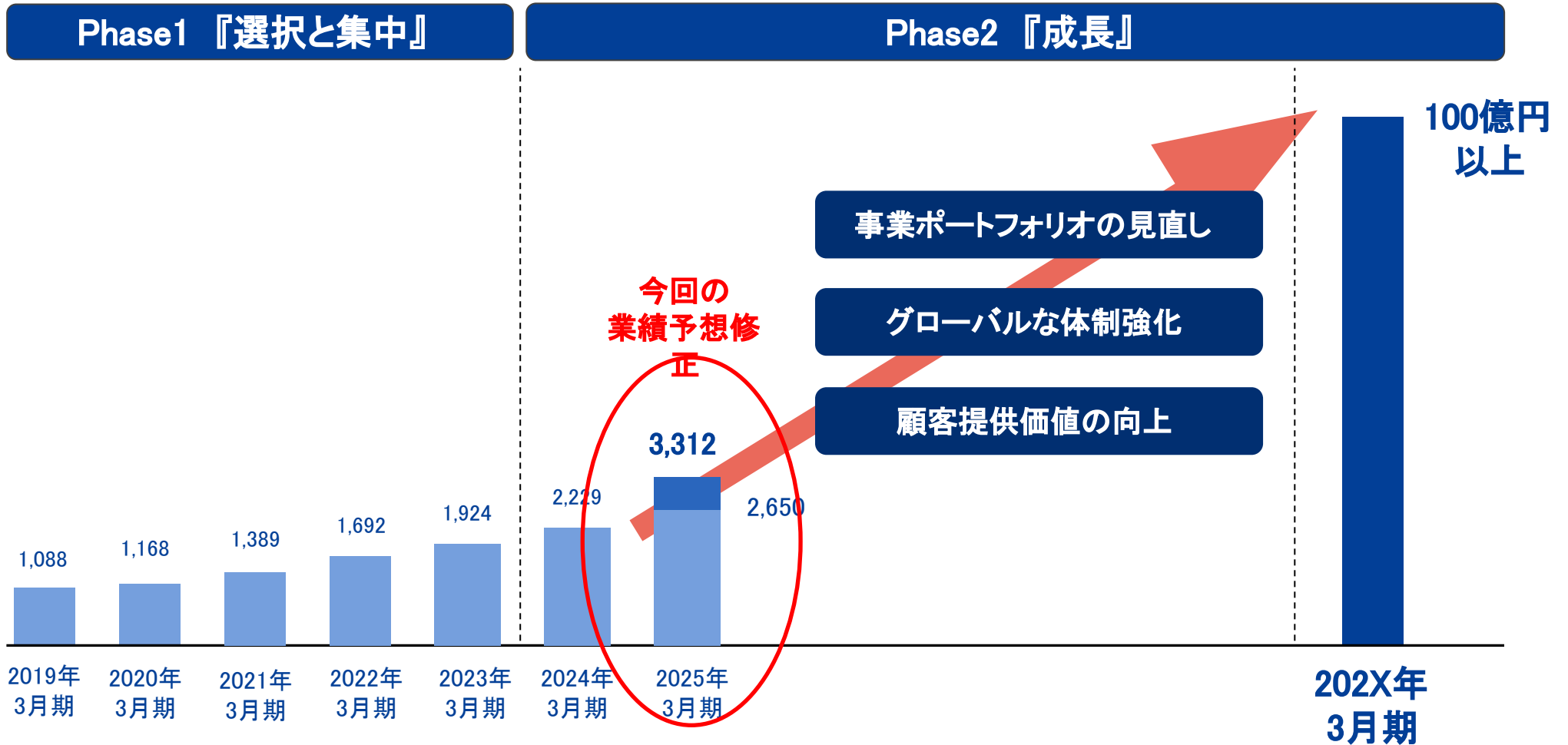
2. 新規事業

- Supermicroとの提携
- AIデータセンター
- AIクラウド
- AIファンド

今回の連結業績予想数値の修正は、既存事業におけるパートナーシップ強化と新規事業におけるAIファンドの進捗を反映

『選択と集中』から『成長』フェーズへ AI関連新戦略の協力的な推進

売上高(単位:百万円)



市場環境: AIコンピューティング需要の指数関数的な増大

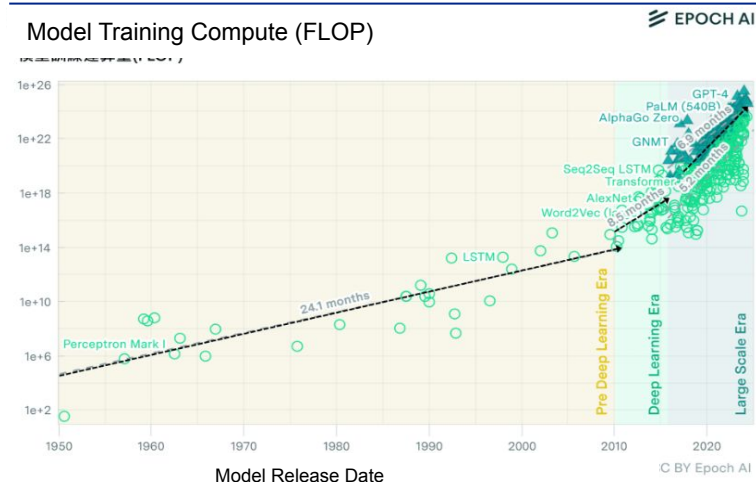
従来のAIから生成系AIに移行したことで、処理量と速度が増強

- 大規模言語モデル(LLM)は急激に成長。また、映像生成技術の急速な進展に伴い、LLMよりもはるかに高い計算能力を擁する動画生成のインフラが必要
- AIロボットの普及には、顧客サービス、医療診断、生産自動化、自動運転など様々な分野で高い計算力が必要
- あらゆる企業が、生産性、競争力の強化を進めるためにAIを活用し始める中、強力なAIインフラの需要も増加。2033年までにAIインフラ市場は4,000億ドルを超え、2024年から2033年までの年間成長率(CAGR)は、27.53%に達すると予測。⁽¹⁾
- **アップストリームの生産能力は不足、一方でダウンストリームのコンピューティングパワー需要は増加**。AIモデルのトレーニングに必要な計算能力は約6カ月ごとに倍増する一方で、生産能力が追いつかず、高性能AIサーバーが世界中で不足
- **AIサーバー市場は、2024年から2027年までに年平均成長率(CAGR)が24.7%と予測**。AIサーバーの市場規模は、2024年の200万台から、2027年には320万台に増加すると推測⁽²⁾

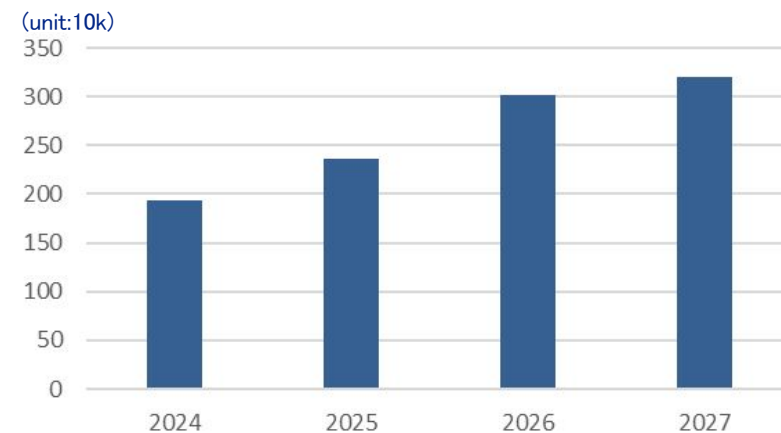
(1) 出典: Artificial Intelligence (AI) Infrastructure Market Size, Share, and Trends 2024 to 2033, Precedence Research

(2) 出典: Taiwan Accounts for 90% Global AI Server Shipments with Two Major Growth Drivers Anticipated in 2024, Press Release, Market Intelligence & Consulting Institute, Taiwan

トレーニング・コンピュータ・リソース



2024~2027年にかけての AIサーバーユニット年平均成長率 (2)



市場環境: AIインフラストラクチャーには多額の投資が必要

当社は、世界のAIインフラストラクチャーのニーズに向けファンドを通じて資本を調達

- AIインフラストラクチャーへの投資は大規模な一方で、計算能力が大幅に不足する環境下で、大企業でさえリソースの確保は困難。AIインフラストラクチャーへの投資は、数十億ドル規模となるため、**限られた資本の中小企業にとってはより困難**
- **データセクションは、この課題に取り組むためのファンドを設定**。グローバル投資家を誘致し、資金的支援を確保することで、AI分野への参入をサポートすることを目指す

当社は米国、欧州との密接な協力関係を構築し、GPU調達とプロジェクト組成を推進

- **AIは、最近の地政学的リスクの高まりの中で、ドローン、衛星、顔認識、大量のデータ分析の使用を通じて、安全保障上の改題解決策として注目**
- **欧州にも焦点**。数十年にわたる投資不足と米国への依存(米国の7,135億ユーロに対して欧州諸国の2930億ユーロ⁽¹⁾)の後、**欧州の防衛費は2026年までに4,530億ユーロに増加する**と予測⁽¹⁾、5年間で53%の増加が見込まれ、2030年までには1兆ユーロに迫ると予測。⁽¹⁾
- AI技術に関しては、米国は厳しい輸出規制を課し、強化の方向。**今後、米国との関係が強い国や安全保障上のパートナー国のみが、必要な輸入許可および技術支援を得ることが可能**
- 当社は、Supermicroとの提携を通じ、**クオリフィケーションプロセスをクリアしているため最先端GPUの調達が可能**

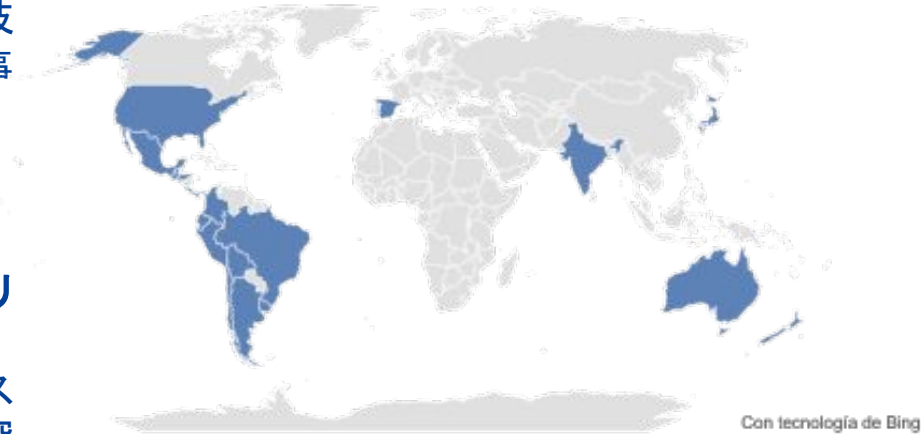
(1) 出典: McKinsey. *Invasion of Ukraine: Implications for European Defense Spending (December 2022)*; includes European NATO members including Turkey, as well as Austria, Finland, Sweden, Switzerland, and the United Kingdom

新規事業における当社のミッション： AIで世界中で人々の暮らしを向上させ続ける

強力なグローバルプレゼンスと独自のビジネスプランをベースに
AI市場でのリーディングカンパニーを目指す

- 当社は、2014年に東京証券取引所に上場。テキスト分析やAI開発技術に基づくビッグデータからの分析サービスを提供しており、新規事業として**AIデータセンターの運営とAIクラウドサービスの運営を開始**
- AI産業での総合的な技術力と、地政学的ニーズに対応するためのリソースを確保する**強力なアップストリームおよびダウンストリームのパートナーシップ・ネットワーク**を有する。それらを生かして、アップストリーム・メーカーでの生産ボトルネックや現在の世界的なGPUの深刻な不足の解決を目指す
- 日本やアジアだけでなく、特に欧米諸国においても、AIデータセンターとAIクラウドサービスの運営に戦略的に注力
- 2024年6月に締結された日本でのパートナーシップに基づくアジア最大の次世代AIデータセンターを皮切りに、**欧州およびグローバルで最先端のAIデータセンターの建設と運営を追求**

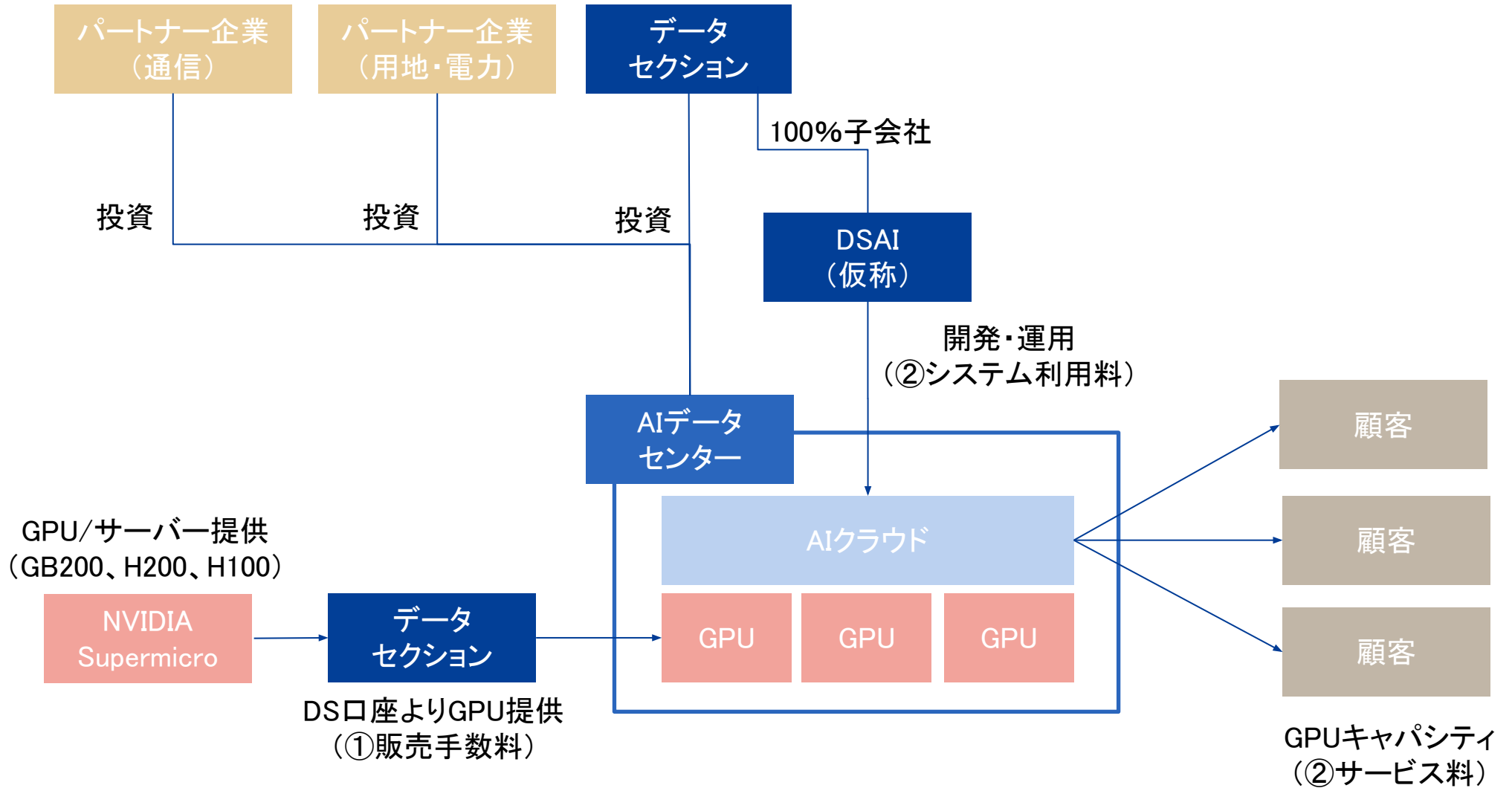
当社のグローバル展開



データセクションは20か国に拠点を有する
日本、インド、オーストラリア、ニュージーランド、チリ、コロンビア、ペルー、アルゼンチン、エクアドル、ボリビア、ブラジル、ウルグアイ、パナマ、グアテマラ、ホンジュラス、エルサルバドル、コスタリカ、スペイン、メキシコ、米国

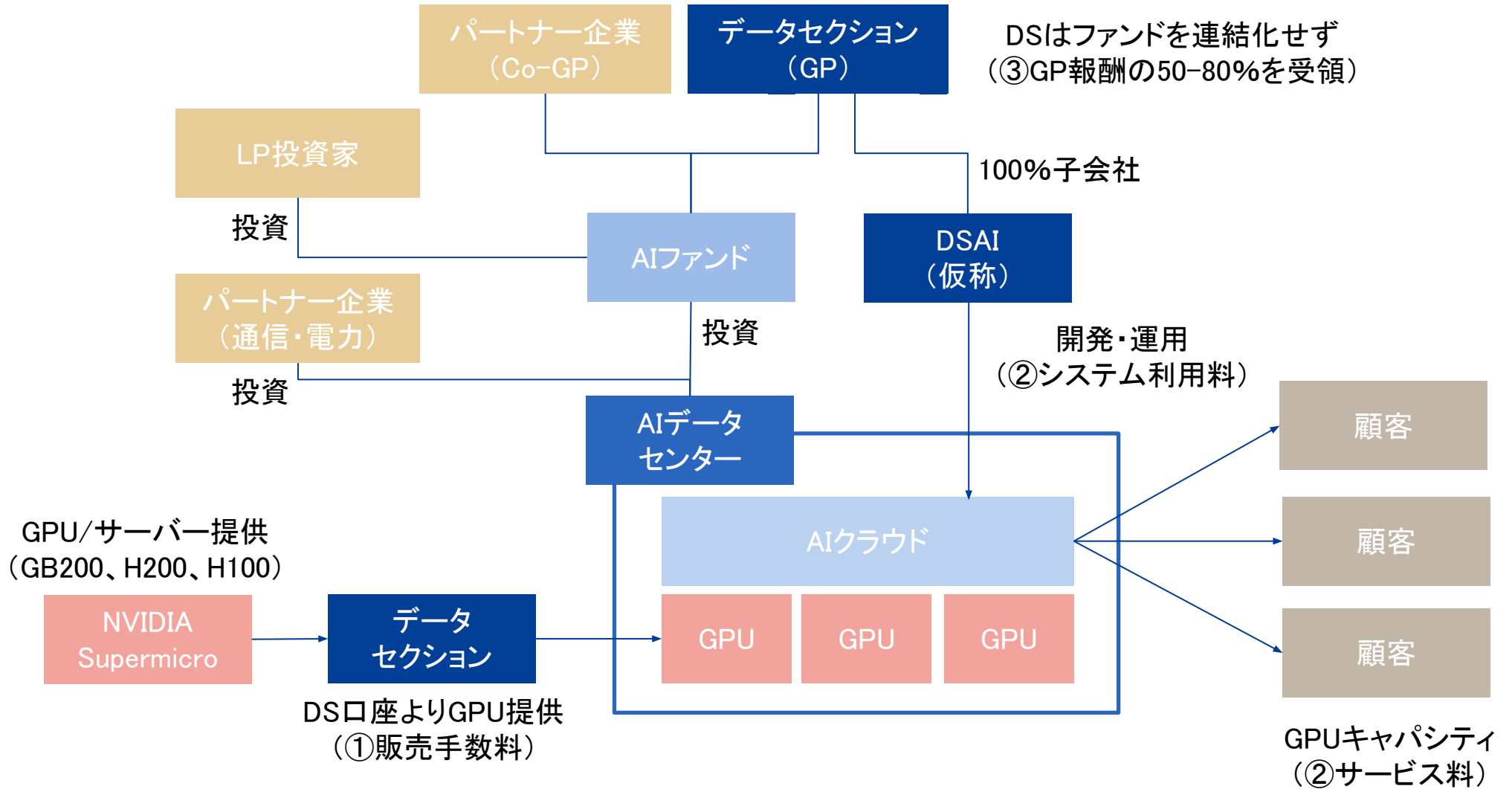
AI事業ストラクチャー A: 直接投資型

- AIデータセンターを直接投資型の場合は、2パターンの売上構造
- AIデータセンター投資からの潜在的なリターン



AI事業ストラクチャー B: ファンド投資型

- AIデータセンターをファンドから支援する場合は、3パターンの売上構造
- AIファンドからのGPキャリー



DSグループの収益モデル

■ 新規事業であるAI関連事業からは、主に以下の3パターンの収益を想定

①GPU 販売手数料

GB200 NVL72
H100, H200

世界で販売

手数料

今期より
計上開始

- 堺ではGB200 NVL72を1,000ラック規模(1,000 x 72GPU)
- 欧州、アジアで500-1,000ラック規模のプロジェクト数件検討中

②AIクラウド サービス料/ システム利用料

GPUサービス料

稼働台数

AIクラウドの
システム利用料
分を受領

今期より
計上開始

- 参考値として、現在のマーケットではGPU使用料を1時間5ドル程度
- GB200 NVL72には72のGPUが含まれる
- AIクラウドは当社開発・運営
- AIデータセンターのサービス料に対するシステム利用料の割合に関しては、各AIデータセンターで決定

③AIファンド GP運用報酬

AIファンド
(20億米ドル=
2,900億円)

年間GP報酬
2.0%

GP持分比率
50-80%

年29-46億円
(成功報酬除く)

- DSはファンドを連結化せず
- ファンドの運用はローカルのパートナーを誘致
- GP報酬の50%-80%程度を受領

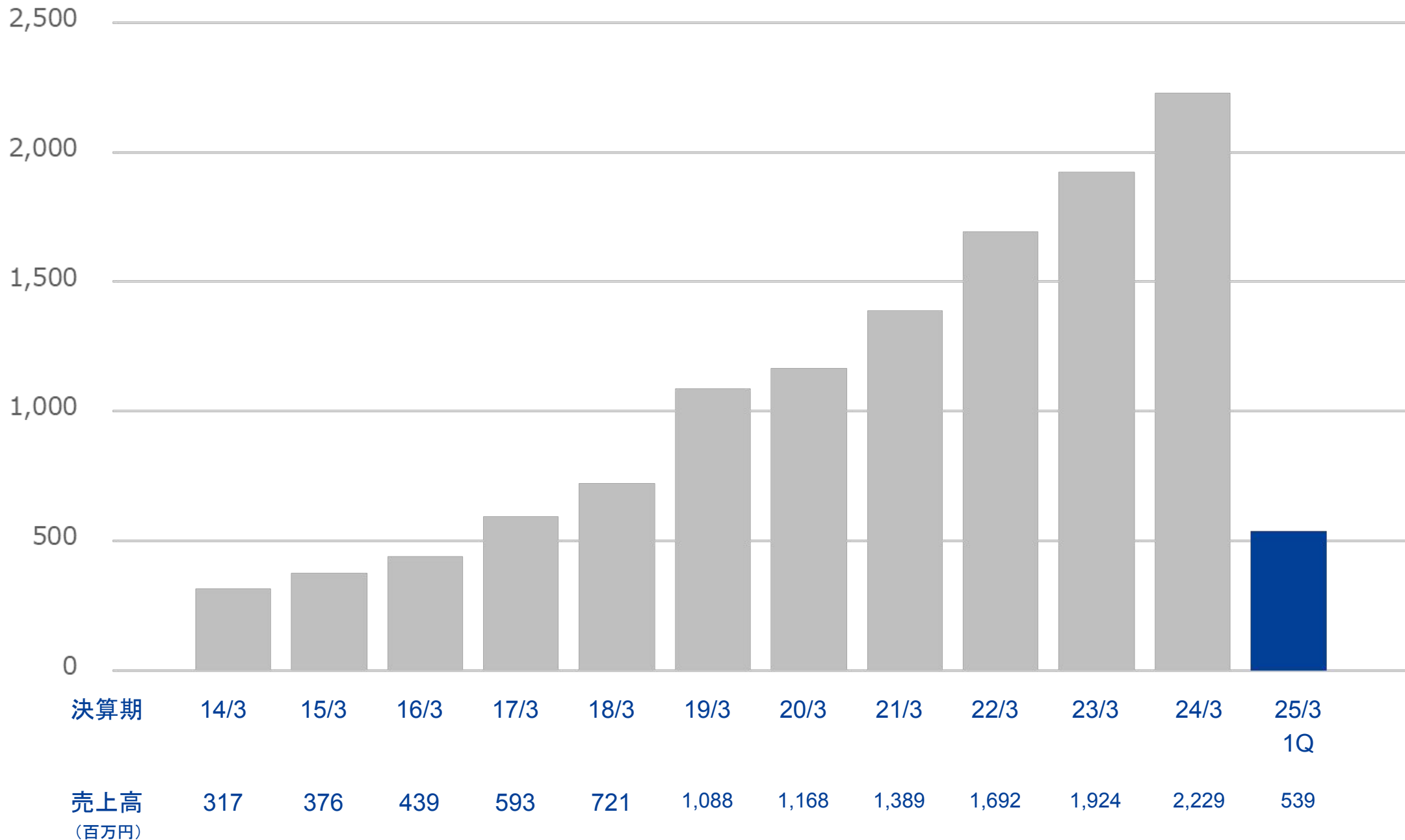
4Qから20億ドルの半分を運用開始
GP報酬の50%を当社グループで收受
=362.5百万円を計上

DS AI Infrastructure Global Investment Fund

	項目	詳細	
1	名称	DS AI Infrastructure Global Investment Fund	
2	所在地	ケイマン籍	
3	組成目的	グローバルでのAIデータセンターへの出資(ファンドはAIデータセンターを運営する会社の株式を保有)	
4	組成日	2024年内を目途	
5	ファンド出資	目標20億米ドル	
6	General Partner(GP)	名称	DS AI Investment (仮称)
		設立日	2024年10月1日予定
		投資チーム	<ul style="list-style-type: none"> ■ Pablo Casado Blanco(当社会長) ■ 石原紀彦(当社代表取締役社長CEO) ■ Haoyu Wang(当社Global CFO、グローバル戦略本部) ■ Matias Jurado Alvarez 他
		アドバイザリーボード	HE Anders Fogh Rasmussen(NATO元事務総長、デンマーク元首相) 他
		Co-GP	欧州系銀行がCo-GPとして参加を検討中
		GP出資額	ファンド総額の1.0%(キャピタルコール方式*)
		GP報酬	<ul style="list-style-type: none"> ■ ファンド総額の2.0%(年率) ■ キャリドインタレストの20.0%(8.0%のハードルレート)
		7	Limited Partner(LP)

*キャピタルコール方式:ファンドの投資進捗に応じて、出資コミットメント金額の範囲内で段階的に資金提供

3. Appendix





決算期	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3 1Q
営業利益 (百万円)	57	85	28	79	45	100	14	18	77	▲55	▲216	▲91



決算期	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3 1Q
經常利益 (百万円)	60	85	36	71	45	95	5	31	165	46	▲235	▲84

連結 親会社株主に帰属する当期純利益推移



決算期	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3 1Q
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	45	63	26	36	16	37	▲17	▲41	2	▲530	▲1,261	▲93

4. 參考資料

会社概要

We ARE ...

What we will be ...

What we should do ...

Change the Frame

世界のデータ部「セクション」として
人々の暮らしを世界中でバージョンアップし続ける
テクノロジーで実社会に変革をもたらし、
新しい暮らしをつくりあげる

データセクション株式会社

所在地 東京都品川区西五反田1丁目3-8五反田PLACE 8F

事業内容 データサイエンス
マーケティングソリューション
システムインテグレーション

設立日 2000年 7月 11日

資本金 1,868,479千円(2024年3月31日現在)

役員構成

代表取締役社長CEO	石原 紀彦
代表取締役副社長CFO兼COO	岩田 真一
取締役	Christian Cafatti
	片野 大輔
取締役(社外)	坂田 幸樹
	内山 雄輝
常勤監査役(社外)	田代 彰
監査役(社外)	横山 大輔
	西尾 いづみ

証券コード 3905

株主 First Plus Financial Holdings PTE. Ltd.
KDDI株式会社
日本生命保険相互会社
株式会社博報堂
その他

創業者 橋本 大也

2000 2003 2009 2012 2013 2014 2016 2017 2018 2019 2023 2024

MSSを子会社化

The ROOM4Dの事業譲受

日本テクトシステムズと業務提携
Jach Technology SpAを子会社化

KDDIと資本業務提携
アルムと医療領域にて資本業務提携
店舗分析ツール“FollowUP”の事業譲受

ディーエスエスを子会社化

日本データ取引所設立

★東証マザーズに上場

データエクステンションコンソーシアム設立

コンサルティング専門子会社ソリッドインテリジェンス設立

博報堂と資本業務提携

ソーシャルリスニングツール“Insight Intelligence”提供開始

★医療領域等様々な新規事業創出

ブログ記事・ネットニュース・掲示板のデータ収集を開始

★IoTデバイスを活用した事業支援(リテールに特化)

創業

★AIを活用した事業支援(D/L等の技術を用いたソリューションの展開)

★ソーシャルビッグデータを活用した事業支援(SNSデータの解析ツールや解析レポートの提供)



石原 紀彦

代表取締役社長
CEO



岩田 真一

代表取締役副社長
CFO兼COO



Christian Cafatti

取締役



田代 彰

常勤監査役(社外)



横山 大輔

社外監査役



片野 大輔

取締役



内山 雄輝

社外取締役



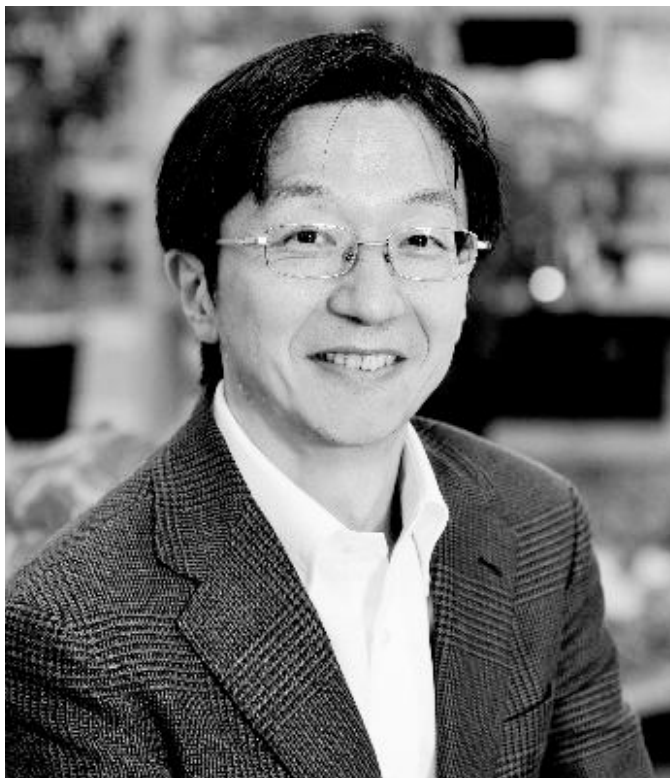
坂田 幸樹

社外取締役



西尾いづみ

社外監査役



創業者

はしもと だいや

橋本 大也

データサイエンス 人材育成の第一人者

データセクション株式会社創業者（現在当社顧問） / デジタルハリウッド大学教授
メディア・ライブラリー館長 / 多摩大学大学院客員教授
早稲田情報技術研究所取締役 / 書評家・翻訳者

2000年代初頭からアルファブロガーとして日本有数のインフルエンサーとして長年に渡る人気ブログである「情報考学 Passion for the future」を執筆。書評ブログとして月間約30万UUの人気ブログとなった。現在では日英両方で書評ブログ執筆しており著書として「情報考学Web時代の羅針盤 213冊」（主婦と生活社）／翻訳書として「アナログAIの次に来るもの」がある。2000年前後のシリコンバレースタートアップ・ベンチャーを調査し大企業向けにコンサルティングサービスを展開しながら、2000年にビッグデータと人工知能企業のデータセクションを創業。2014年に東証マザーズ（現東証グロース）市場に上場し、現在は当社顧問に就任。以降、大学を始めとする教育の場にて教育者・事業家として活躍。デジタルハリウッド大学では教授として「テクノロジー特論(旧データサイエンス基礎)」担当。多摩大学大学院では客員教授として「先端ITマーケティングイノベーション」担当。現在は、ChatGPTを始めとする生成AIの技術領域にて研究を重ね、講演を行うと共に、著名な研究者と共にスタートアップの事業開発を準備中。

データセクション グループの紹介

データセクションは世界中の仲間たちと共に成長します。データとAIで未来を形作る冒険が今、始まります。

大容量のデータ分析、AIによる高性能の画像解析等に強みを持ち、グローバルベースで、小売業界など幅広い企業のDX化・業務合理化をサポート。顧客ニーズに応じた受託開発事業、Fintech事業、ソーシャルメディア分析事業など幅広く展開。



	連結化 年度	議決権 保有割合	主要な事業内容
データセクション株式会社 	2000	—	データサイエンス事業 システムインテグレーション事業 マーケティングソリューション事業
ソリッドインテリジェンス株式 会社 	2013	86.9%	マーケティングソリューション事業 (多言語ソーシャルメディア分析等)
株式会社ディーエスエス 	2018	100.0%	金融系システム運用保守及び、アプリケーション開発・ システムインテグレーション事業
Jach Technology SpA 	2019	100.0%	マーケティングソリューション事業 (チリ)
Alianza FollowUP S.A.S. 	2019	100.0%	マーケティングソリューション事業 (コロンビア)
Inteligencia S.A. 	2021	100.0%	マーケティングソリューション事業 (チリ)
Follow UP Peru S.A.C. 	2022	55.0%	マーケティングソリューション事業 (ペルー)
FollowUP Customer Experience S.I 	2023	95.0%	マーケティングソリューション事業 (スペイン)
Alianza FollowUP Panamá S.A 	2023	100.0%	マーケティングソリューション事業 (パナマ)
株式会社MSS 	2024 (予定)	100.0%	マーケティング・リサーチ事業 セールスプロモーション事業

データセクション株式会社

ir@datasection.co.jp
03-6427-2565

〒141-0031

東京都品川区西五反田1丁目3-8 五反田PLACE 8階

<https://www.datasection.co.jp>

注意事項

- 本資料は投資家の参考に資するため、当社の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しで、リスクや不確実性を含んでおり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。従いまして、これらの業績予想のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。